学校だより２月号

学校教育目標
★「未来を拓く」東荷小教育
つ…強い心と体をもち、か…賢い頭をつくり、り…立志の実現のために努力を続け、は…自分自身の花を咲かせる、たくましい東荷っ子の育成。

校　報
つか　り
東　荷
（何事も誠実に親切に）

平成２８年(2016年) ２月１日現在
１年…　１名　２年…　３名
３年…　０名　４年…　６名
５年…　４名　６年…　１名
児童数　合計１５名（１１家庭）
○発　行：光市立 東荷小学校
○文　責：〔校長〕 三浦龍夫
★情報があれば、お知らせ下さい！

誉めて育てる

イルカの調教のお話より

校長　三浦龍夫

日本全体で言うと何十年ぶりの大雪で、東荷地区も深い積雪ではないものの一面真っ白な雪景色でした。私は非常時対応で６時過ぎに学校に入りましたが、道路の白線が一切見えず対向車が来るたびにスリップしないだろうかと、怖い思いをしながらの出勤でした。特に事故なく過ぎましたがまだ安心は禁物かもしれませんね。

さて、先日は参観日・学校保健委員会へのご参加ありがとうございました。「思春期のおっぱい育児」というタイトルで光市健康増進課保健師の松下瑞枝様のお話は、微妙な時期での子どもたちの接し方について、距離感の取り方や自己肯定感の持たせ方等、短い時間の中で中身の濃いお話でした。やはり一番大切なのは効果的な誉め方だそうですね。諸説あって逆の考えを提唱される学者もありますが、私もまずは「子どもに共感する」から始まると考えます。

私の前任校は下関水族館「海響館」の近くにあり、開設当初からイルカやアザラシの展示・調教を担当される保護者の方がおられました。その方が言われるのもやはり「誉めて育てる」でした。イラッとくることもあるけれどとにかく我慢、言葉は通じないので特別な方法で、よくできたタイミングで誉め続けるそうです。時間がかかる地道な調教の積み上げだと思いました。私たちの子どもたちへの教育もまさにこれかなと思います。言葉が聞こえたとしても心にしみなければ意味がない、信頼関係を築くには「まず共感してから問題に気づかせる」そのためにも「誉めて育てる」は大切な要素だと思います。

さて、平成２７年度もあとわずかとなりました。残念ながら「藤公マラソン」は何かの理由で中止になったそうですが、朝のマラソンは依然続いています。校舎前面中央に掲げるチャレンジ目標「あいはかつ」その中の「つ」は私も大好きな「続けること」。一人ひとりが新年に立てた誓いの言葉、粘り強く取り組んで達成に向けて頑張ってほしいと思います。平成２８年もどうぞよろしくお願いいたします。

おめでとうございます

学校保健委員会「思春期のおっぱい育児」講演